

平和へのあゆみ

～非核平和の実現を目指して～



浦安市

目次

あいさつ

- 浦安市長あいさつ 2
- 広島市長あいさつ 3
- 長崎市長あいさつ 4

1. 原子爆弾の基礎知識

- 核兵器とは 5
- 広島と長崎に落とされた原爆の違い 5
- 広島・長崎の原爆被害の比較 5
- 原子爆弾の特徴 6
- 世界の核兵器 7
- その他の被爆被害(第五福竜丸事件) 7

2. 浦安市の非核平和への取り組み

- 平和学習青少年派遣事業 8
- 小・中学校被爆体験講話
及び非核平和パネル展 8
- 非核平和街頭キャンペーン 9
- 広島・長崎原爆被災展及び
長崎の語り部による被爆体験講話 9
- 横断幕・懸垂幕の掲出 9
- 親子平和バスツアー 10
- 原爆パネル展 10
- 千羽鶴の献納 10
- 宣言塔・宣言板等の設置 10
- 非核平和啓発カレンダーの作成 10
- 被爆クスノキ 11
- 日本非核宣言自治体協議会 11
- 平和首長会議 11
- 浦安市被爆者団体育成補助金 11

3. 浦安被爆者つくしの会 20周年を振り返る

- はじめに 12
- 会長あいさつ 12
- 祝辞 12
- 浦安被爆者つくしの会 13
- 市民功労賞 13
- 会員メッセージ
 - *「一枚の被爆絵」(益田 敏夫) 13
 - *「よくぞ生きながら得た68年」
(河口 正博) 14
 - *「私の被爆体験」(出羽 文明) 15
 - *「原子の灯は」(宇田川 太江子) 15
 - *「記念誌発行に寄せて」
(松本 富士子) 16
 - *「なぜ」(土屋 三千恵) 16
 - *「再生可能なエネルギー研究に期待」
(三船 俊子) 16
 - *「被爆者からの手紙」(上川 渥) 17
 - *「母の遺文」(涌井 正樹) 18
 - *「あの日」(大矢 龍夫) 18
- これまでの活動 21
- つくしの会年表 23

資料

- 浦安市非核平和事業年表 30
- 浦安市原子爆弾被爆者団体
育成補助金交付要綱 31
- 非核平和都市宣言 32
- 非核平和都市宣言(英文) 32

浦安市長あいさつ



原子爆弾により、広島・長崎の何十万人という尊い市民の生命が一瞬のうちに奪われてから68年が経過しました。

原子爆弾の被害の悲惨さについては、広島・長崎の原爆資料館に展示されている被災物品、当時の写真や被爆を経験した市民が描いた絵などから垣間見ることができます。そして何よりもその悲惨さを伝えられるのは被爆者の方々の悲痛な体験談です。被爆者の方々が経験した被爆の惨状は筆舌に尽くしがたいものがあります。

しかし、戦後68年が経過し、被爆者の方々の高齢化は進んでいます。本書は非核平和都市を宣言している浦安市の非核平和事業への取り組みと、今年設立20周年を迎える浦安被爆者つくしの会の活動を振り返り、市民のみなさんに非核平和への意識向上を目的として作成しました。市民のみなさんがこの冊子をお読みになり、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて再考し、市の活動にご理解をいただければ幸いです。

世界に目を向けてみると、核兵器廃絶への目途は立っておらず、依然として道半ばです。このような状況の中で、わが国は唯一の被爆国として、世界に対して、核兵器の廃絶と世界平和を訴えていかなければならないと考えております。1日も早い核兵器廃絶の実現を願ってやみません。

浦安市長 松崎 秀樹

広島市長あいさつ

広島市長の松井一實でございます。

この度、「浦安市非核平和事業記念誌」が発行されますこと並びに浦安被爆者つくしの会が20周年を迎えられることを心からお喜び申し上げます。

1945年8月6日、一発の原子爆弾により広島は灰じんに帰し、帰る家や慣れ親しんだ暮らし、大切に守ってきた文化までもが奪われ、その年の暮れまでに幼子からお年寄りまで14万人もの尊い命が失われました。

原爆を身を以て体験した被爆者の方々は、後障害や偏見に苦しみながらも生き抜き、自らの体験を語り、怒りや憎しみを乗り越え、核兵器の非人道性を訴え、核兵器廃絶に向けて尽力してきました。広島市は、こうした被爆者の方々の思いを受け継ぎ、被爆の実相を風化させることなく、より多くの人々と核兵器廃絶に向けた思いを共有したいと願い様々な取組を行っています。

その思いは、2020年までの核兵器廃絶を目指し、世界の5,600を超える都市が加盟する平和市長会議の輪を広げる取組や、来春に広島で開催される「軍縮・不拡散イニシアティブ」外相会合を始めとする様々な平和関連行事等を通じ、広く国内、そして世界の人々と共有することができると考えています。

浦安市におかれましても、浦安被爆者つくしの会を始め、市民の皆様が、核兵器の非人道性を訴え、世界恒久平和の実現を目指して積極的な活動を展開して下さっていることに、志を同じくする被爆都市の市長として心から敬意を表します。

存命のうちに核兵器廃絶を見届けたいと心から願う被爆者の皆様の平均年齢は78歳を超えました。私は、全ての被爆者の方々からその体験や平和への想いをしっかり学び、次世代に継承し、共有していきたいと考えています。浦安被爆者つくしの会において、長きにわたり取り組まれている被爆体験講話等の活動は、まさにそうした思いを具体化するものであり、関係者の皆様の御尽力に深く感謝申し上げます。

核兵器は「非人道兵器」の極みであり、「絶対悪」です。是非とも皆様には、今後ともヒロシマと想いを共有し、人類の未来のため、そして世界恒久平和の実現に向け共に力を尽くし行動して下さることを心から期待しています。

終わりに、皆様の今後ますますの御健勝と御多幸、また貴市の一層の御発展をお祈りいたします。

広島市長 松井一實

長崎市長あいさつ

浦安市非核平和事業記念誌の発刊をお祝い申し上げますとともに、浦安被爆者つくしの会が設立20周年を迎えられたことに心からお慶び申し上げます。

被爆者が高齢化し、戦争を知らない世代が多数を占める現在、被爆の実相を継承することは重要な課題となっています。このようななか、浦安被爆者つくしの会をはじめとする浦安市の皆様におかれましては、長年真摯に平和活動に取り組んでおられることに、心から敬意を表します。

1945年8月9日午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により、一瞬にして壊滅的な被害を受けました。子どももお年寄りも無差別に7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が負傷しました。原爆投下から68年目を迎える現在も多くの方々放射線の後障害に苦しんでいます。

被爆者をはじめとする長崎市民は、核兵器による惨禍が二度と繰り返されることのないよう、核兵器廃絶と世界恒久平和を訴え続けてきました。

2009年4月、チェコのプラハで「核なき世界」を目指すとして演説したアメリカのオバマ大統領の登場により、核兵器廃絶への機運が高まりましたが、依然として世界には1万7千発以上の核弾頭が存在しています。

しかし、今年6月、オバマ大統領はドイツのベルリンで演説を行い、具体的な核軍縮の方針を明らかにしました。大統領があらためて核兵器廃絶の実現にむけて決意表明したことを歓迎するとともに、市民社会からも核兵器廃絶の流れを確実に、力強いものにしていかなければならないと考えています。

貴市にも加盟していただいている日本非核宣言自治体協議会は、今年で設立30周年を迎えます。当協議会では、原爆展の開催支援や親子記者事業の実施、北東アジア非核兵器地帯の創設にむけた署名活動など、核兵器廃絶にむけた様々な取り組みを行っています。私たちは、今後とも自治体や市民社会と連携し、核兵器廃絶を訴えてまいります。

浦安市の皆様におかれましては、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に、浦安市の皆様のますますのご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

長崎市長 田上 富久



浦安市

発行：浦安市

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1 TEL 047-351-1111

発行日：2013年10月

資料提供・作成協力：広島市

長崎市

広島平和記念資料館

長崎原爆資料館

東京都立第五福竜丸展示館

浦安被爆者つくしの会

千葉県原爆被爆者友愛会



この冊子は環境にやさしいベジタブルオイルインキ(植物油インキ)を使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています